

野球競技実施要項

1.競技種目

軟式野球競技とする。

2.競技規則

2021年度公認野球競技規則を適用する。

3.出場資格

関東ろう連盟体育部に登録した者により1都7県単位に編成したチームとする。
茨城2、群馬県1、埼玉県2、千葉県2、東京都2、神奈川県1、栃木県1、
山梨県1、筑波技術大学（茨城）

（全国大会開催・地元開催チームは1チームを加えて参加することができる。ただし、
県単位は開催地を含め最大2チーム以下とする。）12チーム以内になるものとする。

[※優勝・準優勝チームが全国大会に出場する。繰り上げ出場の場合、順次に繰
り上げ、最大4位までとする。]

4.チームの編成

(1) 1チームの編成は、監督・コーチを含む選手20名とする。なお、マネージャー・
スコアラー等は若干名とする。但し、マネージャー・スコアラーの帽子を着用
する（選手同様とする）

(2) コーチまたはマネージャー、スコアラーが選手として出場することはできるが、
選手のみ出場する場合は、20名の範囲で登録しなければならない。

(3) 監督の背番号は30番、主将の背番号は10番とする。

(4) 特別理由（突発性事故、病気等）がある場合に限り、選手の変更及び背番号の変
更は今大会の競技実施要項の規定（所定の用紙に理由を明記して監督・主将会
議の期日までに提出する）に従って認められる。但し、追加の申し込みは、一
切認められない。

(5) 県単位にチームを編成できない場合（8人以下の場合）は、他県のチーム（関
東地区）に加入することができる。

※① 申込み締め切り後の登録・変更については認められない。

② 全国大会出場に補強選手4名まで参加できる。

5.試合方法

(1) 全試合トーナメント方式による。

(2) 全試合7回戦とする。

(3) 得点差によるコールドゲームを採用する。

(4) 得点差によるコールドゲームは5回以降7点差生じた場合とする。

(5) 得点差によるコールドゲームは3回以降15点差生じた場合とする。

(6) 7回を終わって同点は、次項の特別ルール（決勝戦も同様）による延長戦を実施する。

(7) 指名打者制度（DH）を使用することを認める。

自チームがDHを使用し、相手チームがDHをしなくても試合はできる。

(8) [特別ルール]

継続打順とし、前回の最終打者を1塁走者とし、2塁・3塁走者は、順次前の打者（投手を含む）として、1死満塁の状況に1イニング行ない得点の多いチームを勝者とする。

(9) 勝負が決しない場合は、特別ルールによる特別延長戦を実施する。

継続打順とし、前回の最終打者を1塁走者とし、2塁・3塁走者は、順次前の打者（投手を含む）として、1死満塁の状況に1イニング行ない得点の多いチームを勝者とする。（この場合、原則として勝負が決するまで特別延長戦を繰り返すものとする。）

(10) 決勝場合は、下記事項にて実施する。

①得点差及び時間制限によるコールドゲームを採用しない。

②7回戦とし、7回を終わっても同点の場合は、9回まで延長戦を行う。

③延長戦でも勝負が決しない場合は、特別ルールによる特別延長戦を実施する。

（この場合、原則として勝負が決するまで特別延長戦を繰り返すものとする。）

(11) 競技会において、雨天等事情により大会日程等を縮小する必要がある場合は、大会役員・審判団・当該チーム監督等の協議により運営実施する。

(12) 大会使用球は、（公益財団）全日本軟式野球連盟公認Mボールとし、ボールのメーカーについては、ナガセケンコウボールM号とする。

6.用具等

(1) ユニフォーム＝袖に必ず都県名を縫いつけること。

(2) 競技に使用する用具については、（公益財団）全日本軟式野球連盟競技規則に定められたものとする。なお、打者および走者は、ヘルメットを着用しなければならない。また、守備中の捕手は、プロテクター、ヘルメットおよびレガースを着用しなければならない。

(3) 打者・走者・次打者・ベースコーチともイヤーフラップのついたヘルメットを着用しなければならない。（ただし、一般チームのベースコーチについては、イヤーフラップの規則はしないが、耳付きを着用することが望ましい。）

7.打順表（オーダー表）提出について

(1) 第1試合の場合は、試合開始予定時間の30分前に監督・主将が提出する。
この場合、原本と照合の後、審判員立会いのもとに攻守の決定を行う。

(2) 第2試合以降は、前の試合の4回終了時に主将が提出し攻守の決定を行う。

(3) その日の試合がWヘッダー（前の試合終了30分前で試合開始）となる場合の第2試合については、本部の指示により提出する。

- (4) 打順表の用紙（5枚複写）は、本部で配布するので、事前に受領する。
- (5) 打順表の選手については、読みにくい名前にはフリガナをつけること。

8.抗議について

試合中に、抗議できる者は、監督または、主将・当該プレイヤーである。

9.監督・主将会議

- (1) 監督・主将会議において、大会の組合せ抽選会を行う。
- (2) 組合せ抽選会における本抽選のくじ引き順を決定する予備抽選を引く順番は、同会場での出席受付順に行う。
- (3) 県単位の2チーム参加の場合は、決勝までそのブロックに属するチーム同士の対戦は行わない
- (4) 監督・主将会議において、監督・主将が共に欠席する場合は、事前に監督または主将が作成した委任状を提出しなければならない。

10.表彰

- (1) 表彰は、決勝戦終了後、閉会式にて行う。
- (2) 優勝チームに優勝旗・優勝カップ（持ち廻り）賞状・メダルを、準優勝チームは準優勝カップ（持ち廻り）賞状・メダルを3位チームには、賞状・メダルを授与する。
- (3) 個人表彰は、最高殊勲選手賞、最優秀投手賞、首位打者賞、敢闘賞とする。
首位打者賞は、ベスト4チームの全試合を選考基準対象とし、規定打席（9打席以上）を設けて最高打率によるものとする。

11.開会式、始球式、閉会式について

開会式、閉会式は実施しないが、状況により始球式を実施する場合があるので、チームは会場本部指示に従うこと。

12.雨天の場合の連絡等について

- (1) 雨天でも試合を行う場合がある。または、午前中試合を見合わせて、午後から行うこともあるので、大会本部からの連絡に注意すること。なお、当日試合不可能な場合は、大会本部より各チームへ連絡する。
- (2) 雨天や雷雨の場合、審判の判断により、試合を中断する場合がある。

13.その他

- (1) 試合中ベンチに入ることのできる者は、指定された大会係員および登録された監督・選手・スコアラー・マネージャーとする。
- (2) 試合開始予定時刻の30分前までに会場に到着し、会場本部席に報告すること。
なお、集合時刻に遅れたチームは、原則として棄権とみなす。試合開始予定時刻より早くゲームを行える場合もあるので、十分余裕を持って行動をする。
- (3) ベンチは組み合わせ番号の若いチームを1塁側とする。

- (4) ゲーム前の公式練習（シートノック・フィールディング）は5分間とする。但し、天気・時間の状況により中止または短縮する場合がある。ノッカーも選手と同様のユニフォームを着用のこと。
- (5) 雨天時により試合を中止にする場合、決勝戦は両チーム優勝とする。3位決定戦は抽選を行い3位決定する。
- (6) 大会の負傷・病気については、応急手当の他は、主催者側では行わない。
（選手の傷害保険は、各チームにおいて加入しておくこと。）
健康保険証、その他これに準ずるものを持参のこと。
※一般的にはJSBBマークが入っている金属は使ってもいい。
※木製の場合はマークが入っていなくても使用可。
- (7) コロナ対策及び措置
- イ) 大会登録者以外会場の入場を禁じる。
家族、応援者等でも入場できない。（無観客試合を行う。）
 - ロ) 大会登録者は、コロナ対策の遵守及び自己管理に努めること。
 - ハ) 前項で発熱等の疑いが出た者は、いかなる理由でも大会出場を禁じる。
 - ニ) コロナ禍による措置に違反（警告に従わない場合を含む）したチーム（家族、応援者の関係者を含む）は、チームの成績に関係なく全国大会の出場の対象外とする。（試合を打ち切る場合もあります。）
 - ホ) 試合開閉のあいさつは、各自チームのベンチの前で行い、終了後は速やかに退室すること。
 - ヘ) 次の試合があるチームは、スタンド内でソーシャルディスタンスを守り、マスク着用して待機すること。
 - ト) ヘ) 以外のチームは試合終了後、速やかに帰宅すること。
 - チ) 世間の状況により、大会を中止にする場合がある。

附 則

1. 参加条件

- (1) 住民票のある地域または本籍地のある地域の都県に野球部がある場合、どちらかに入部しなければならない。
- (2) (1) 該当しない場合、野球部のある他県に自由に入部できる

2. 要項1 2について次の措置を行う。

パターン	1日目	2日目	備 考
A	決行	雨天中止	その他（5）を適用
B	雨天中止	決行	決勝戦を除く試合を行う。 決勝に進出したチームは両方優勝とする。 なお、3位決定戦は天候により抽選で決めることもある。
C	雨天中止	雨天中止	大会終了日から3週間から1か月以内開催する。この場合は主管に関係なくグラウンド確保できたところで試合を行う。 必ず、正規のグラウンドで行う必要はない。 競技委員及び各チーム監督・主将が運営をしていく。

卓球競技実施要項

1. 競技規則

大会開催年度の日本卓球ルール及び本大会申合せ事項による。

2. 競技種目

- (1) 男子・女子別の団体戦
 - (2) 男子・女子別の一般シングルス戦
 - (3) 男子・女子別のシニアシングルス戦
 - (4) 男子・女子別のダブルス戦
- 計8種目とする。

3. 出場資格

- (1) 団体戦については男女とも1加盟団体4チームまでとする。
- (2) 男女一般シングルス及び男女ダブルスは制限なし。
(一般シングルス出場者はシニアシングルスの部への参加は不可)
- (3) シニアシングルスの部については、男女とも40歳以上希望者とする。
(但し一般シングルスの部への参加は不可)
- (4) ダブルスの組み方については、基本的に同一都県内の選手同士が組むことしかし、余剰の選手は、他都県の者と組むことができる。その選手2人が申し合わせの上、体育部長、卓球部長、監督の承認を得ること。(承認が得られない場合は不可)ダブルス同意書は選手登録申請と同様、通常締め切りとする。

4. 団体戦チームの編成

男子団体：監督1名 選手3～6名を登録できる

女子団体：監督1名 選手2～4名を登録できる

*対戦チーム相手の人数に関しては監督・主将会議にて確認すること。

5. 競技方法

- (1) 8種目すべて勝敗の決定は11点5ゲームマッチ(3ゲーム先取勝)とする。
敗者復活戦は行わない。(3位決定戦は行う。)
- (2) 男子団体戦(出場選手3名による5シングルス、3点先取)

A	B	C	A	B
X	Y	Z	Y	X

- (3) 女子団体戦(出場選手2～4名による1ダブルス2シングルス、2点先取)

W	S	S
W	S	S

(4) 試合日時

月 日(土) 第1日目

- ① 団体戦(男子・女子)組み合わせ方法は、監督・主将会議にて決定するものとする。

※基本形体としてはいくつかのブロックに分けた予選リーグ戦とし、各ブロック1位もしくは、1、2位チームがトーナメント戦出場とする。但し会場や時間などの都合により参加状況によってはトーナメント戦になることもありえる。

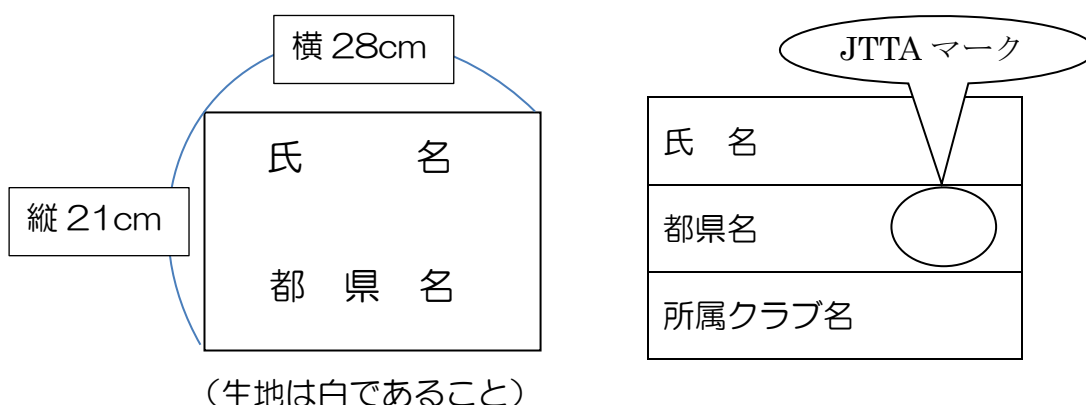
※進行状況により、ダブルス戦を行う場合があります。

月 日(日) 第2日目

- ① ダブルス戦(男子・女子)トーナメント戦とし、決勝まで
② 一般シングルス戦(男子・女子)3人制のリーグ戦後、トーナメント戦とし、決勝まで
③ シニアシングルス戦(男子・女子)は参加状況により、監督主将等合同会議で、競技方法を決定する。但し参加人数が2人以下の場合は二部を中止とし、一部参加に変更となる。
④ タイムアウト適用については、競技主管で決定するものとする。

6. 申し合わせ事項

- (1) 一般、シニア競技者の半袖シャツ、ショーツ、又はスカートは、JTТАの公認マーク付きのものを使用してください。
(2) 半袖シャツは団体戦やダブルス戦の場合、全ての試合において、チーム又はパートナーは同一の柄の半袖シャツ着用とすること。ショーツは同色であれば、よいとする。
(3) 団体戦の場合、試合に出ないベンチメンバーは選手と同じユニフォームは着用しなくてもよい。また、ユニフォームではない半袖シャツの着用も認めるとする。
(4) ゼッケンはJTТА公認のゼッケンか、左下図の様式の通り作成し背部に着用すること。



- (5) 会場及び時間の都合、または参加チーム及び選手が多いあるいは少ない場合、試合方法を変更することがあります。
- (6) 個人参加申込みについては、ベスト8選手同士の組合せを考慮するために戦歴を備考欄に記入してください。
- (7) 試合中のアドバイスについてはアドバイザー1名のみベンチに入れる。
(アドバイザーは競技者と共にベンチに入れること)
- (8) 試合前の練習は1分間とする。
- (9) 招集について、試合開始の5分前には選手待合所に集合すること。もし来なければ、呼びかけを実施し、5分以内に来なかった場合はその選手を棄権とみなす。

7. 使用球

ボールはJTТА公認の40ミリボールを使用する。(使用球のメーカー、色は監督主将等合同会議で決定するものとする)

8. 組合せ抽選

- (1) 団体戦の組合せは、監督・主将会議にて抽選を行う。
- (2) 個人戦とダブルス戦は、実行委員会と競技委員、審判長の立ち会いのもとで代理抽選により決定する。
- (3) 監督・主将等会議において監督・主将が共に欠席したチームは原則として出場を棄権したものとみなす。代理人が出席する場合は事前に監督または主将が作成した委任状を提出しなければならない。
- (4) シードは下記の通りとする。
男女団体戦・・・参加チーム数16チーム以上の場合、前回ベスト4まで
参加チーム数15チーム以下の場合、前回1位、2位まで
男女個人戦・・・参加人数30人以下の場合、前回ベスト4まで
参加人数31人以上の場合、前回ベスト8まで
男女ダブルス・・・前回ベスト4まで(但しパートナーの変更は不可)

9. 表彰

- (1) 団体戦は優勝チームに優勝カップ(持ち廻り)・賞状・メダルを、2位、3位チームは、賞状・メダルを授与する。
- (2) シングルス戦とダブルス戦は、1位から3位までに賞状・メダルを授与する。
※注意点 関東ろう連盟体育部委員会の運営マニュアルにより、団体戦3チーム以下の場合1位チームのみ優勝カップ(持ち廻り)・賞状・メダルを授与する。シニアシングルス戦3人以下の場合は1位のみメダル・賞状を授与する。

10. その他

- (1) 競技方法や競技服装等については、監督・主将会議にて確認してください。
- (2) 進行の都合で試合予定のコートや時間を変更することがありますので、その場合競技者は競技役員の指示に従ってください。
- (3) スポーツ傷害保険などは、各自において加入してください。

バレーボール競技実施要項

1. 競技規則

2022年度（公財）日本バレーボール協会6人制競技規則による。

2. 競技種目

男子6人制及び女子6人制の2種目とする。

3. 出場資格

- ① 関東ろう連盟体育部に登録した者により1都7県単位に編成したチームとする。
- ② 都県単位でチームを編成できない場合は、他県チーム（関東地区内）に加入することができる。但し、居住するチームがあるにもかかわらず、他の都県チームへの参加に、やむを得ない事情がある場合は、両チームの都県体育部長と当事者との協議によって同意を得る、かつ、その証明する文書に当事者の署名と捺印をもって有効とする。同意を得た後の苦情・クレームは受け付けないとする。
- ③ 当事者が、居住するチームに加入しなくても、居住チームが編成が可能な場合、当事者は他の都県チームへの加入することができる。但し、居住先及び加入先の都県体育長及びチーム代表者に報告をし、確認書に前記4名の署名と捺印をもって有効とする。
- ④ 上記以外のケースに関しては、体育部長及び技術委員の指示を仰ぐ。

4. チームの編成

- ① 1チームの編成は、監督（聴覚障がい者である事）1名、コーチ1名、マネージャー1名、選手14名の（内リベロ2名）の計17名以内とする。
- ② 監督、コーチ、マネージャーが選手を兼ねる場合は、選手名簿にも登録されていなければ選手として出場できない。

3. 構成員以外のベンチ入り及び公式練習への参加は出来ない。

4. 競技方法

- ① 参加チーム数によりトーナメント方式、又はリーグ戦については組み合わせ抽選・打ち合わせ会において決定する。全試合3セットマッチとする。
- ② 3セット目の15点及び25点については、抽選・打ち合わせ会において決定する。
- ③ 試合間の休憩は、30分とする。試合進行状況により15分に変更することがある。
- ④ リードしているチームが13点取った時、水分補給を目的とした60秒のタイムが行われる。但し、選手の水分補給・汗拭き取り以外の行為は不可とする。
（監督・コーチ・マネージャーを交えての会話は禁止）

※ルール（5）に関しては、当日の状況により、本ルールを適用するかしないかを、当日の朝、代表者に連絡する。

6. 申し合わせ事項

- ① 監督・コーチ・マネージャー・選手（背番号を含む）の変更は認める。
- ② 特別な理由（突発的な事故、病気等）がある場合に限り、選手の変更並びに背番号の変更は、今大会の競技実施要項の規定（所定の用紙に理由を明記して、大会前日までに提出する）に従って認められる。但し、追加の申込みは、一切認められない。

- ③ 監督・コーチ・マネージャーそれぞれの記章マークのワッペンを各チームで揃えること。
- ④ 大会当日の受付で試合に必要な（ローテーション表）を渡す。
- ⑤ 主将は、ジャージ色と異なった色の幅2cm長さ8cmのマークをユニフォームの胸の番号の下に明確に付けること。

7. 使用球

（公財）日本バレーボール協会検定18枚張り5号球を使用する。
※ボールメーカーについては、決定次第、各チームに連絡する。

8. 組み合わせ抽選

- ① 監督・主将会議において、抽選を行う。
- ② 監督・主将会議において、監督・主将が共に欠席したチームには、原則として出場を棄権したものとみなす。代理人が出席する場合は、事前に監督または主将が作成した委任状を作成しなければならない。

9. 表彰

- ① 優勝チームに優勝カップ（持ち回り）を授与する。
- ② 賞状及びメダルに関しては、参戦チーム数に応じて授与チーム数を決定する。
※決定内容は、監督・主将会議にて連絡する。
- ③ 個人表彰については、最優秀選手賞を授与する。

10. その他

スポーツ傷害保険等は、各チームにおいて加入しておくことが好ましい。

11. 本要項の改正

一部改正 2015年8月29日 第1回委員会

サッカー競技実施要項

1. 競技種目

サッカー競技とする。

2. 競技規定

大会開催年度の(公益財団)日本サッカー協会規定の「サッカー競技規則」及び本大会申合せ事項による。

3. 出場資格

- (1) 関東ろう連盟体育部に登録した者により1都7県単位に編成したチームとする。人数が多い場合、人数によってABとチームを編成できる。ただし、ABとも同一都県名に限る。
- (2) 県単位にチームを編成できない場合は、他県のチームに(関東地区内)に加入することができる。

4. チームの編成

- (1) 1チームの編成は、監督・コーチ・マネージャーを含めて、22名内とする。
- (2) 特別な理由(突発的な事故、病気等)がある場合に限り、選手の変更並びに背号の変更は、今大会の競技実施要項の規定(所定の用紙に理由を明記して大会前日に提出する)に従って認められる。但し、追加の申込みは認められない。

5. 競技方法

- (1) リーグ戦又は、トーナメント方式とする。
- (2) 試合時間は、リーグ戦方式は、50分、又は、60分とし、トーナメント方式は、80分(40分ハーフ)
- (3) トーナメント戦の場合：以下の通りとする。
＜決勝戦＞同点の時は20分の延長戦を行い、延長でも同点の時はPK戦とする。
＜上記以外＞PK戦のみ行う。
リーグ戦の場合：勝点によって順位を決定し、延長戦は行わない。

6. リーグ戦の順位決定について

リーグ戦の成績は、勝点の合計によるものとする。

- ② 試合の勝者は3点、引き分けは1点、敗者0点とする。
- ② 全試合の得失点差の多い順
- ③ 全試合のゴールアベレージ
- ④ 当該チームの対戦成績
- ⑤ 抽選

7. 使用球

試合球は、(公益財団)日本サッカー協会公認5号球とする。

8. 組み合わせ抽選

- (1) 監督・主将会議において、抽選を行う。
本抽選のくじ引き順を決める予備抽選は当会議への出席受付順とする。

- (2) 監督・主将会議において、監督・主将が共に欠席したチームは、原則として出場を棄権したものとみなす。
代理人が出席する場合は、事前に監督または主将が作成した委任状を提出しなければならない。
- (3) 組み合わせ方法は、競技実施要項に基づくものとするが、最終的には参加申し込みチーム数に応じて、主催者と競技主管が協議して決定する。前大会の成績によるシード制を採用することがある。ホーム・アウェーのユニフォーム一式を持参すること。(GK 用も含む)

9. 競技者の交代

交代については、試合開始前に登録した9名の交代要員の中から5名までの交代が認められる。

10. 警告・退場者の取り扱い

① 退場

退場を命じられた選手は、次の試合には出場することができない。
処分(1試合又は2試合)は試合終了、本部で決定し、チームに通告する。”

② 警告

1試合あたり2枚の警告累積で、次の試合には出場することができない。

11. 危険物

競技中は、補聴器の装着を認めない。
スポーツ眼鏡については、主審の判断により使用を認める。

12. ユニフォーム

- (1) 参加申込書に登録されたものを原則とし、参加申込書送付後の変更は認めない。
なお、選手番号の変更も認めない。
- (2) 正のユニフォームの他、異なる色のユニフォーム(副)を参加申込書に記載し、試合には必ず正副のユニフォームを携行すること。(GK も正副揃える)
- (3) 選手番号は必ず参加申込書に登録された選手固有の番号をつけること。
【ユニフォームに取り付ける選手番号について】
 - ・シャツの背中 高さ 25 cm
 - ・シャツの前面 右側・左側・中央に高さ 10cm
 - ・パンツの右側又は左側に高さ 8cm(シャツの番号と同一)
- (4) 試合におけるユニフォームの決定は1回戦は監督・主将会議で行う
(※会議には、ユニフォーム一式(ホーム・アウェー、GK 用も含む)持参の上、出席のこと)。
2回戦以降は、メンバー表交換の場で決める。
- (5) インナーシャツ、サーマルアンダーショーツ(スパッツ)を着用する場合は、
シャツとショーツの主な色と同色とする。

13. 審判の合図

フリーキック、PK、プレースキックで、キッカーに蹴らせるタイミングを知らせる笛の代わりに、笛がなり始めてから終わるまでの間、主審は片手を前に水平に伸ばして示すものとする。

14. 表彰

表彰は決勝戦終了後、閉会式において行う。

- (1) 団体戦5チーム以上出場した場合は、優勝チームに優勝カップ（持ち回り）・賞状・メダルを2位、3位チームは、賞状・メダルを授与する。
- (2) 団体戦4チーム以上出場した場合は、優勝チームに優勝カップ（持ち回り）・賞状・メダルを2位チームは、賞状・メダルを授与する。
- (3) 団体戦3チーム以下出場した場合は、優勝チームのみ優勝カップ（持ち回り）・賞状・メダルを授与する。
- (4) 個人表彰は、最優秀選手賞・得点賞・敢闘賞を授与する。
- (5) 個人表彰は最優秀賞(1名)・敢闘賞(1名)とし、選考は競技主管である開催地サッカー協会が行う。

15. 本大会は、テクニカルエリアを設ける。

テクニカルエリアの使用について、チーム役員は、その都度1名がテクニカルエリアから戦術的指示を与えることが出来る。指示を伝えたら、所定の位置に戻らなくてはならない。全てのチーム役員は、その中に止まっていなければならないし、責任ある態度で行動しなければならない。

16. 審判補助員の配置

ゴール裏斜めの位置に、旗を持った補助員1名（計2名）を置く。

17. その他

- (1) 大会中の負傷・病気については、応急手当のほかは主催者では行わない。
- (2) スポーツ傷害保険等は、各チームにおいて加入しておくこと。

《 注 意 事 項 》

(1) メンバー表の提出

メンバー表は3部複写とし、3部提出し確認を受けること。1部はチーム控えとして返却する。

メンバー表、交代用紙は監督・主将等合同会議にて配布する。第1試合については、試合開始予定時間の40分前に競技本部に提出すること。

以降の試合については、前の試合のハーフタイム時に提出すること。

試合に勝ったチームは、試合終了後に次の試合のメンバー表を競技本部まで取りに行くこと。

(2) 交代用紙

交代用紙は5枚配布する。用紙には、時間、選手名(フルネーム)、監督のサインを記入すること。

- (3) チーム・ベンチ
- ① 第4審判員席からグラウンドに向かって左側のベンチは組み合わせの左側のチームが、右側ベンチは組み合わせの右側のチームが使用する。
 - ② テクニカルエリアに設置されたベンチには、12名が着席出来る。
- (4) 練習時間
- グラウンドでの練習は、試合開始20分前より10分前とする。
ただし、大会運営上支障があるときは、変更することがある。
- (5) 競技の組み合わせ
- 組み合わせ方法は競技実施要項にもとづくものとするが、最終的には参加申し込みチーム数に応じて、主催者と競技主管が協議して決定する。前大会の成績によるシード制を採用することがある。
- (6) その他
- 注意事項は、チーム全員に徹底しなければならない。

テニス競技実施要項

1. 競技規則 (公財)日本テニス協会2022年版競技規則による。(以下JTA競技規則)
2. 競技種目 男子・女子ともシングルスとダブルスの合計4種目とする。
3. 出場資格
 - ① 出場人数について、各都県に制限を設けない。
 - ② ダブルス種目で1人だけ余剰の選手は他都県の選手と組む事が出来る。申し込む場合は、選手2人が申し合わせの上、体育部長及びテニス部長、監督の承認を得ること。ダブルス同意書は選手登録申請と同様、通常締め切りとする。但し、シード権対象者は除外とする。
 - ③ 通常締め切り後の追加・キャンセル・取消は原則として認めない。
4. 競技方法
 - ① 各種目とも予選リーグ戦又は、決勝トーナメント方式とする。但し、申込数により決定する。(シングルス戦の場合1日1人あたり男子6試合女子5試合を限度とする。)
 - ② シード順位は昨年度関東ろう者体育大会成績を対象とする。
 - ③ 1セットマッチ6ゲームオール7ポイント・タイブレークとする。
 - ④ JTA 競技規則第三部トーナメント諸規程・諸規則等7.チェアアンパイアのつかない試合規則を全て適用する。よって、適当数のロービングアンパイアを置かなければならない。
5. 申し合わせ事項
 - ① 競技方法(1)について、運用方法は内規のとおり適用する。
 - ② コートはオムニとする。
 - ③ 試合は、発表されたオーダーオブプレーに従い、遅滞無く続けなければならない。(JTA競技規則による。)
 - ④ 試合開始前のウォーミングアップは、3分間とする。但し、試合進行状況により変更する場合もある。
 - ⑤ 使用したボールの処分は競技委員の判断による。
 - ⑥ 競技服装はJTA競技規則による。
 - ⑦ 競技中は、補聴器の装着を認めない。
 - ⑧ 雨天の場合、競技委員(本部)が判断する。
6. 使用球 JTA公認ボールとする。
7. 表彰
 - ① 各種目とも、1位から3位までに賞状・メダルを授与する。
 - ② 出場人数が3名以下あるは3ペア以下の場合、1位のみ賞状・メダルを授与する。
8. 組み合わせ
監督・主将会議の当日、JTA 競技規則及び内規に従って抽選を行なう。
9. その他
 - ① 打ち合せ等で意見があれば検討の上、決定する。
 - ② スポーツ傷害保険等は、各自において加入しておくこと。

ボウリング競技実施要項

1. 競技規則

2022年度（公財）全日本ボウリング協会（JBCルール）による。

2. 競技種目

男子・女子とも個人戦と団体戦の2種目とする。

3. 競技方法

(1) デュアルレーン方式とする。

(2) 同点の場合は、シリーズのロー・ハイの差の少ない方を上位とする。

※途中順位におけるタイスコアは、

◎その時におけるシリーズのロー・ハイの差の少ない方を上位とする。

◎その時におけるゲームのロー・ハイの差の少ない方を上位とする。

(3) 検量合格証を保持し、競技委員の提示要求に応じなければならない。

(4) 検量合格証がない場合、競技開始までに検量を受けておくこと。

(5) 競技中参加全競技者の中から無作為にボール検査を実施する。登録されていないボール、検査したボールが規格に外れたり、規定に反していた場合は失格とし、大会で記録したゲームは全て無効となる。

(6) 個人・団体戦とも、遅刻した場合は、失格なく、かわりに賞状なしです。団体戦の試合中に、不調の場合、補欠の交代は無効です。

(7) 男・女・個人決勝戦（参加人数によってカットする）進出する。

男子は、20～29名で16名：30～39名で20名：40名以上で24名

女子は、13名以下で6名：14～19名で8名：20名以上12名

4. 競技日程

第1日目

※個人戦、団体戦ともに、1ゲーム終了後、右に1BOX飛ばして2BOX目へ移動する。

男子・女子・個人戦（6ゲーム）スタート

男子（6ゲーム合計上位 名勝進出）

女子（6ゲーム合計上位 名勝進出）

※6G終了後、昼食（60分）

男子・女子・団体戦（前半3ゲーム）スタート

男子（1チーム4名×3ゲーム）

女子（1チーム2名×3ゲーム）

第2日目

※個人戦の決勝は、1ゲーム終了後、隣のBOXへ移動。

男子・女子・団体戦（後半3ゲーム）スタート

男子（1チーム4名×6ゲーム合計で上位順位決定）

女子（1チーム2名×6ゲーム合計で上位順位決定）

男子・女子・個人戦決勝（3ゲーム）スタート

※1ゲーム毎となりのBOXへ移動

男子（9ゲーム合計上位順位決定）

女子（9ゲーム合計上位順位決定）表彰式（大会全競技終了）

※上記の競技時間は進行の都合により変更することがあります。

5. 注意事項

- (1) 競技中トラブルが生じた時は競技を一時中断し、競技委員の指示に従うこと。
- (2) 競技出場選手は必ずユニフォームを着用すること。
- (3) 団体戦は、ユニフォームを揃えて着用すること。

6. 表 彰

- (1) 団体戦5チーム以上出場した場合は、優勝チームに優勝カップ（持ち廻り）・賞状・メダルを2位、3位チームは、賞状・メダルを授与する。
- (2) 団体戦4チーム以上出場した場合は、優勝チームに優勝カップ（持ち廻り）・賞状・メダルを2位チームは、賞状・メダルを授与する。
- (3) 団体戦3チーム以下出場した場合は、優勝チームのみ優勝カップ（持ち廻り）・賞状・メダルを授与する。
- (4) 個人戦は、1位から3位までに賞状・メダルを、4位から5位までに賞状を授与する。
- (5) HG, HS男女とも（但し、個人戦予選の成績を対象とする。団体戦は入らない）

7. その他

- (1) スポーツ傷害保険等は、各自において加入しておくこと。

8. 本要項の改正

一部改正2016年11月27日 第3回本委員会

ゲートボール競技実施要項

1. 競技規則
大会開催年度の（公財）日本ゲートボール連合「公式ゲートボール競技規則」審判実施要領及び大会申し合わせによる。
2. 競技種目
ゲートボール競技とする。
3. 出場資格
1都7県単位に編成した団体で、関東ろう連盟加盟団体の正会員でかつその団体に登録した者。何チームでも参加できる。
4. チームの編成
 - ① チームの編成は、競技者5名以上7名以内とし、年齢・性別の制限はしない。
 - ② チームを編成できない場合（4人以下の場合）は他県チームに編入、もしくは他県チームと編成することができる。
5. 競技方法
 - ① 予選リーグ戦、決勝トーナメント戦とする。
 - ② 競技時間は、30分とする。
 - ③ リーグ戦各コートの上位2チーム（1・2位）が決勝トーナメント戦に進出する。
 - ④ 特別な理由（突発的な事故、病気等）がある場合に限り、選手の変更は今大会実施要項の規定（特定の用紙に理由を明記して大会前日までに提出する）に従って認められる。但し、追加の申し込みは一切認められない。
6. 使用球
開催地で用意する。
7. 組み合わせ抽選
主将会議において、地元審判員及び役員にて抽選を行う。
8. 表彰
 - ① 優勝チームに優勝カップ（持ち回り）・賞状・メダルを、準優勝チーム・3位チーム賞状・メダルを授与する。
 - ② 個人表彰は最優秀選手賞 ・敢闘賞を授与する。
9. 注意事項
 - ① コートの運営
 - (ア)コートは、インサイドライン縦15m、横20mとする。
 - (イ)会場の関係でアウトサイドライン、スタートエリア、得点ボードは設けない。
 - (ウ)待機エリアは第4コーナー付近の第3ライン側と第2コーナー付近の第1ライン側にするが、ライン区画はしない。また、椅子は置かない。
 - (エ)競技者はインサイドライン外側50cm以上離れていること。また、主将の指示も同様とする。

(オ) 選手待合所は設けない。

② 競技進行

(ア) 先攻・後攻はリーグ戦の第1試合から第4試合までは組み合わせ表によって行う。第5試合以降、トーナメント戦までは主審がコイントスで決める。

(イ) リーグ戦の順位決定方法は次の順序による。

① 勝ち数 ② 得失点差 ③ 対戦結果 ④ 総得点

(ウ) 競技没収に対しての得点は0：0とする

(エ) 競技没収されたチーム及びリーグ戦を棄権するチームがあった場合は、残りチームの対戦結果にて代表チームを決定する。

(オ) 10秒ルール警告は8秒、9秒、10秒と審判が身振りによって警告をする。

③ 用具等

(ア) スティックは参加者が持参するものとする。

(イ) 主将の腕章はチームが用意する。

(ウ) 大会使用球は実行委員会が用意する。

(エ) 打順の番号表示ゼッケンはチームが用意する。

(オ) 主将の表示はスティックを使わず、手で表示すること。

(カ) 次の試合に出場するチームは、競技終了の10分前に、オーダー表を持って第4コーナー付近に、集合セレモニーを済ませ、待機すること。

(キ) オーダー表は試合の都度、コート of 審判員に渡すこと。

④ ユニフォーム

ユニフォームは、チームとして統一したものを着用しなければならない。

10. その他

スポーツ傷害保険等は、各自で加入しておくこと。

11. 本要項の改正

一部改正 2015年 3月21日 関東体育部委員会

一部改正 2015年 8月29日 関東体育部委員会

一部改正 2016年 5月21日 関東体育部委員会

一部改正 2017年11月26日 関東体育部委員会

一部改正 2019年 3月31日 関東体育部委員会

ソフトボール競技実施要項

1. 競技規則
2022年度（公財）日本ソフトボール協会オフィシャル・ルールによる。
2. 競技種目
ソフトボール競技とする。
3. 出場資格
関東ろう連盟体育部に登録した者により1都7県単位に編成したチームとする。
東京都、茨城県、神奈川県、群馬県、栃木県、千葉県、埼玉県、山梨県、・但し人数が多い場合は2チームの出場を認める。
〔※優勝、準優勝、3チームが全国ろうあ者体育大会に出場する〕
4. チームの編成
 - (1) チームの編成は、監督・コーチ・マネージャー・スコアラーを含む20名以内とする。監督またはコーチ・マネージャー・スコアラーが選手として出場することはできるが、選手として出場する場合は、20名の範囲内で登録しなければならない。
 - (2) 特別な理由（突発的な事故、病気等）がある場合限り、選手の変更並びに背番号の変更は、本大会の競技実施要項の規定（所定の用紙に理由を明記大会前日までに提出する）に従って認められる。但し、追加の申込みは一切認められない。
 - (3) 県単位にチームを編成できない場合は（8人以下の場合）、他県のチームに（関東地区）加入することができる。
 - ① 申込み締め切り後の登録・変更については認められない。
 - ② 全国ろうあ者体育大会出場に4名まで参加できる。
5. 試合方法
 - (1) 対戦方法は4チームの場合リーグ戦方式とし、5チーム以上の場合にはトーナメント戦方式にする。但し参加チームが少ない場合（4チーム以下）はリーグ戦で7回戦とする。
 - (2) 【リーグ戦方法】
 - ① 試合は、5イニング制と時間（90分）を併用し、先に達した時は試合終了とする。但し、5回を終了、または、90分越えた時点のイニング終了で同点の場合次の回よりタイブレーカーを適用する。【トーナメント戦】
5. 試合は、5イニング制と時間（90分）を併用し、先に達した時は試合終了とする但し、5回を終了する。
6. 競技方法
 - (1) 90分を越えて新しい回に入らないものとする。5回まで達した場合は規定時間に達しなくても終了とする。
 - (2) 3回15点・4回10点・5回以降7点以上の差が生じた場合は、得点差コールドゲームとする。

- (3) 日没・降雨・その他プレーヤーが危険にさらされる恐れが出た場合は、コールドゲームとする。5回あるいはそれ以上の回を終了するかは、その5回裏の後攻チームが攻撃中であっても、後攻チームが先攻チームより多くの得点をした場合は、コールドゲームとして試合は成立する。
- (4) 故意四球は、守備側チームが投球せずに故意に打者を1塁に歩かせるため、投手、補手あるいは監督が球審のその旨を通告する。

7. 使用球

ナガセケンコー3号球

8. 組み合わせ抽選

- (1) 監督・主将会議において、抽選を行う。
- (2) 監督・主将会議において、監督、主将が共に欠席する場合は、事前に監督、主将が作成した委任状を提出しなければならない。

9. 表彰

- (1) 決勝戦終了後、閉会式において行う。
- (2) 表彰は、最高殊勲選手賞・最優秀投手賞・首位打者賞・敢闘賞とする。
(1回戦から決勝戦までの全試合を選考基準対象とする。)

10. その他

- (1) ダブルベースを使用すること。
- (2) 外野フェンスを設定すること(68.58m以上)。
- (3) ベンチに入る人数は本大会登録人数とすること。
- (4) 選手の傷害保険は、各チームにおいて加入しておくこと。
- (5) グラウンドの件、できる限りソフトボール専用とか、野球専用で使用する。
- (6) 第1試合開始前に始球式を行なう。
- (7) 競技ルール以外の場合は、実行委員会と競技委員の打ち合わせを行うこと。
- (8) その他詳細については参加チームに直接連絡するとともに監督・主将で定める。

《 注 意 事 項 》

1. 選手の集合時間

- ① 試合開始予定時刻の30分前、または前の試合3回終了までに、当該球場に集合すること。遅れた場合は、原則として棄権とみなす。
- ② 没入試合について
規則違反、またはトラブルが生じた場合審判が判断し、試合終了を宣告することができる。過失のないチームは(7-0)で勝ちとする。但し、ペナルティはこの試合限りとする。

2. 打順表の記入と提出

試合開始予定時刻の30分前、または前の試合5回終了までに、打順表(4枚1組複写)必要事項を記入し、必ずふりがなをつけて球場本部に提出すること。相手のチーム打順は、審判・記録員の照合確認の上、審判員より受け取る。

3. 攻守順の決定

打順表提出の時、審判員立会いのもと「コイン」のトスによって決定する。
「コイン」の裏表は先着（打順表持参）チームに優先権を与える。

4. 競技者席

組み合わせ番号の若い方を一塁側とする。ベンチに入る人数は要項で定められた者以内とする。

5. フィーディング

- (1) 競技場に入ることを許されたメンバーで行うこと。
- (2) 後攻チームより5分間とし、審判員の指示に従うこと。
- (3) 大会進行上、時間の短縮及び省略することもある。

6. 競技用具

- (1) バット、両耳ヘルメット（JSA）の点検をし、規定以外のもの及び危険と思われる用具は、試合終了まで、球場本部席で保管する
（試合終了後、受け取りにくること）。
- (2) 同一チームの選手のユニフォームは同色で統一された品位あるものであること。
また、帽子は同一のものとする。
- (3) 背番号は監督30番・コーチ31番、32番・主将10番・選手は1番から99番までとする。
- (4) 攻撃中の打者、次打者、走者はヘルメットを着用しなければならない。
- (5) 守備中の捕手は、スロートガード付マスク、ヘルメット、レガースを着用しなければならない。ボディプロテクターを着用しなければならない。
- (6) 捕手（または他のプレーヤー）は準備投球する時も、スロートガード付マスクを着用しなければならない。
- (7) 金属製スパイク使用は認めない。また、危険行為をした場合は退場とする。
- (8) コーチBOX内にヘルメットを着用しなければならない。
- (9) スコアラー、マネージャーの帽子を着用する（選手同様とする）

7. 競技開始

- (1) 「集合準備」の指示で自己のベンチ前に列横隊に立つ。
- (2) 「集合」の号令と同時に駆け足でホームプレートをはさんで整列する。

8. 攻守交替・選手交替

- (1) すべて、駆け足で敏速に交替を行う。
- (2) 選手の交替は、監督が球審にすみやかにその旨、通告すること。

9. 攻守交替のボール

別に指示があった時以外は審判員に渡さない。

10. 抗議

審判員の判定に基づく判定に対して抗議することは許されない。ルール上の疑義については、監督に限り、これをただすことができる。

11. その他

雨天の際の処置について

- ア) 小雨決行
- イ) 試合を中止、又は開始時刻を変更する場合は大会本部から各チームに連絡する。但し、雨天の場合は必ず競技場で集合すること。
- ウ) 午前中雨天でも、天候の回復状況により試合を開始することもある。
- エ) 大会の負傷・病気については、応急手当は、主催者側では行わない。
- オ) 雨天の時により試合を中止にする場合は決勝戦は両チーム優勝とする。3位決定戦は抽選を行い、3位決定とする。

12. 「附則」

1. 参加条件

- ① 住民票のある地域または本籍地のある地域の都県とソフトボール部がある場合どちらかに入部しなければならない。
- ② (1)該当しない場合はソフトボール部のある他県に自由に入部できる。

2. 要項について次の措置を行う。

パターン	1日目	2日目	備 考
A	決 行	雨天中止	その他（木）を適用と試合時間短縮（60分）
B	雨天中止	決 行	試合時間短縮（60分）
C	雨天中止	雨天中止	9人抽選で決める。 （全国ろうあ者体育大会出場のため）

13. 本要項の改正

- 一部改正 2015年8月29日 関東体育部委員会
- 一部改正 2020年4月 1日 関東体育部委員会

バドミントン競技実施要項

1. 競技規則

大会開催年度の(公益財団法人)日本バドミントン協会競技規則並びに公認審判員規程、大会運営規による。

2. 競技種目

男子・女子ともシングルス及びダブルスと混合ダブルスの5種目とする。

※但しエントリー状況により、変更する場合がある。

3. 参加資格

(1) 男子・女子シングルス及び各ダブルスについての参加人数の制限はしない。

(2) ダブルスのペアについては基本的に同一加盟団体内での組むこと。しかし、各ダブルス種目余剰の選手一名については、他加盟団体参加選手と組むことを認める。(ダブルス同意書は、選手登録申請と同様、通常締め切りとする)

4. 競技方法

各種目とも予選リーグ戦、決勝トーナメント方式及び三位決定戦で行う。但し、参加状況により、トーナメント方式で行うことがある。競技方法の決定は競技主管で行う。

予選リーグ15点 2ゲーム先取(延長なし)

決勝トーナメント21点 2ゲーム先取(延長あり30点まで)

※リーグ戦順位決定基準

① 勝ち試合のうち2-0は(2点)、2-1は(1点)、負け試合のうち0-2は(-2点)、1-2は(-1点)とし、合計点数の多いほうから上位とする。

② 勝ち点合計が2選手以上同数の場合は、次の方法により順位を決める。全試合(対戦)の取得ポイント総数をA、喪失ポイント総数をBとし、その得失ポイント差が大きいほうを上位とする。

5. 使用シャトル (公財)日本バドミントン協会検定合格品とする。

6. 組み合わせ抽選

(1) 参加申込締切後、実行委員会においてレフェリー立会いのもとで、代理抽選により決定する。

(2) 男女シングルスは前回4位まで、ダブルスは前回2位までをシードする。

7. 表彰

各種目とも、競技終了後閉会式において行う。

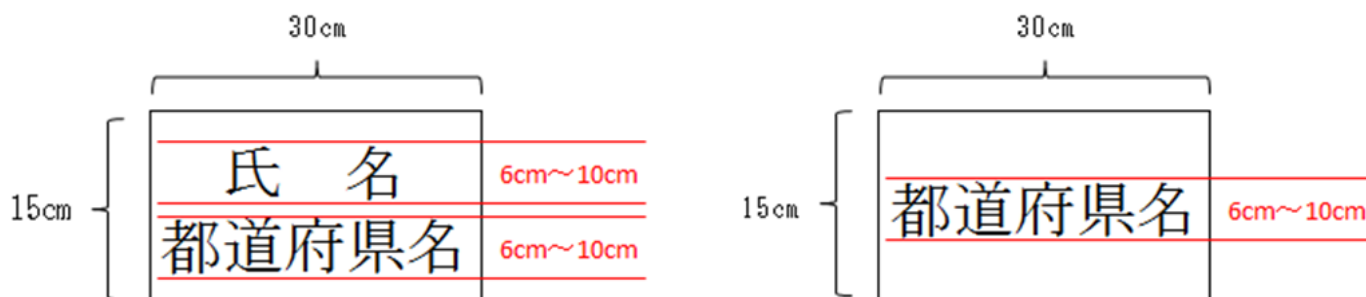
8. 競技服装

(公益)日本バドミントン協会が公認するもので、背面には都道府県名を入れたものを推奨する。(日本バドミントン協会大会運営規定第23~24条参照。)

(1) 公益財団法人日本バドミントン協会競技規則に則って背面表示にする。

(2) ゼッケンを使用する場合には4点留めとする。

- (3) 背面中央には必ず都道府県名または氏名及び都道府県名のみを日本語で明記し、文字の色は上衣に鮮明に映えるものとする。(服に直接プリントでも可)
- (4) スポンサー、チームデザインを入れないこと。



9. 競技審判上の注意

- (1) 選手はコールを受けた後、5分以内にコートに入ること。
- (2) 進行状況により、試合開始時間・日程及びコートの変更をすることがあるので、場内放送(掲示)に充分注意すること。
- (3) サービスジャッジは、決勝より付けるものとする。その他の試合においては原則として付けない。
- (4) 試合を連続して行う場合のインターバルは10分とする。
- (5) 各試合(マッチ)のインターバルは次の通り
 - ① すべてのゲーム中、一方のサイドのスコアが11点になった時、60秒を超えないインターバルを認める。(選手は20秒前にはコートに入ること)
 - ② 第1ゲームと第2ゲームの間、第2ゲームと第3ゲームの間に120秒を超えないインターバルを認める。(選手は20秒前にはコートに入ること)
- (6) インターバル中のアドバイスは、監督・コーチなど同時に2人まで。主審の「(コート番号)20秒」で、コートから離れること。
- (7) 試合開始前の練習(1分間)をする相手は対戦相手とする。
- (8) 試合(マッチ)中の水分補給、汗ふきなどは必ず主審の許可を得ること。
- (9) サービスの遅延行為に関する判定は主審が行う。
- (10) 主審が必要と認めた以外のプレーの中断は、一切認められない。
- (11) 審判員の合図について
 - ① 「アウト」は両腕を水平に広げて合図する。
 - ② 「イン」は右手でそのラインを指す。
 - ③ 「フォルト」(反則)は両手の小指を絡ませ、左手の小指から下へ切り離すようにする。
 - ④ 「レット」(無効を意味し、やり直し)は、両手の拳を縦横にくっつけて横に寝かせてから、そのまま起き上がらせて立てる。
 - ⑤ 「エンドの交代」は、両手を左右に伸ばし、それを前で交差させて示す。
- (12) 次のような違反行為に対しては厳正に対処する。(競技規則第16条)
 - ① 息切れなど体力回復等の遅延に関わる行為、又は、アドバイスを受けるためにプレーを遅らせる行為。
 - ③ 主審の許可なしにコートを離れること。
 - ③ 故意にシャトルに手を加えたり破損したりする行為。
 - ④ 審判員や観客に対しての横柄な振舞い、下品で無礼な態度、言動。

- ⑤ 見苦しい着衣でプレーをする。
- ⑥ ラケットや身体でネットなどのコート施設を叩いたり、耳障りなかけ声や奇声を発するなどの不品行な振る舞い。
- (13) 競技中の怪我や病気については、主審が判断する。もし必要ならレフェリーを呼び、レフェリーの判断に従うことになる。
- (14) 審判の判定に「抗議」や「異議」を唱えることは一切認められない。もし判定に対し疑問がある場合には、次のサービスが為される前に「質問」をすることができる。ここで質問ができる者とは、当該選手に限る。
- (15) 選手は試合終了後、選手同士の握手の後、主審（サービスジャッジ）とも握手をすることを心掛けること。
- (16) 競技場内では、携帯電話の電源を切るか、もしくはマナーモードにすること。
- (17) 会場内におけるコーチ席利用は参加登録者のみ許可する。
- (18) 試合中にモバイル機器を使用したアドバイス・コーチングを受けることを禁止する。

10. 本要項の改正

- ・ 一部改正 2016年6月1日
- ・ 一部改正 2018年2月1日

フットサル競技実施要項

1.競技規定

2022年度（財）日本サッカー協会制定の「フットサル競技規則」による

2.競技種目

フットサル競技とする。

3.クラス

男子部門・女子部門とする。

4.出場資格

- ① 関東ろう連盟体育部に登録した者により1都7県単位に編成したチームとする。
- ② 県単位にチームを編成できない場合は、他県（関東地区内）に加入することができる。

5.チームの編成

- ① 1チームの編成は、監督・コーチ・マネージャーを含めて15名以内とする。ただし、ベンチに入る交代要員の選手は7名以内とする。（プレーする5名に交代要員最大7名を加えた12名までが選手登録できる）なお、監督・コーチが選手を兼ねる場合は選手名簿に登録されていなければ選手として参加できない。
- ② 特別な理由（突発的な事故・病気等）がある場合に限り、選手の変更並びに背番号の変更は、今大会の競技実施要項の規定（所定の用紙に理由を明記して大会前日に提出する）に従って認められる。但し、追加の申し込みは認められない。

6.競技方法

- ① リーグ戦もしくはトーナメント戦方式とする。方式・試合時間も含め本部または監督・主将会議で協議の上、決めるものとする。
- ② リーグ戦は対戦チームとの勝敗が決しない場合でも試合は終了とする。
- ③ リーグ戦の順位については次の通りとする。
 - 【1】勝ち点の合計（勝ち：3点・引き分け：1点・負け：0点）
 - 【2】得失点差の多い順
 - 【3】総得点
 - 【4】当該チーム間との対戦成績
 - 【5】PK（サドンデス方式）
- ④ 5ファールルールとする。（前半のファール数を後半に持ちこまない）
- ⑤ 各チーム、前半・後半各1回タイムアウト（1分間）を取ることができる。
- ⑥ トーナメント戦では、対戦チームとの勝敗が決しない場合、PK戦（3人）を行う。

7.使用球

試合球は（財）日本フットサル協会公認フットボールとする。審判の承認を得ずに競技中にボールを交換してはならない。

8.組み合わせ・試合順

- ① 監督・主将会議において抽選を行う。本抽選のくじ引き順を決める予備抽選は同会議への出席受付順とする。
- ② 監督・主将会議において、監督・主将が共に欠席したチームは原則として出場棄権したものとみなす。代理人が出席する場合は、事前に監督または主将が作成した委任状を提出しなければならない。
- ③ 組み合わせ方法は競技実施要項に基づくものとするが、最終的には参加申し込みチーム数に応じて主催者と競技主管が協議して決定する。

9.警告・退場者の取り扱い

退場を命じられた選手は次の1試合もしくは2試合に出場することができない。
処分（1試合または2試合）は試合終了後、審判委員会で決定しチームに通告する。
警告を2回受けた選手は次の試合に出場する事ができない。
なお、警告及び退場による罰金は無しとする。

10.危険物

競技中はメガネ及び補聴器・指輪・ピアス・ネックレスの装着は認めない。
(スポーツメガネについては審判団と協議の上、決定する)

11.服装

- ① 正規のユニフォームの他に、これと異なる色系統の副のユニフォーム（上衣・パンツ・ストッキング、それぞれについても異なる色系統とする）を携行し、ユニフォームには背番号・胸番号・パンツ番号をつける。
- ② 選手番号は、必ず参加申込書に登録された選手固有の番号をつけること
- ③ ユニフォームに取り付ける選手番号の位置については、
 - ・シャツの背中：高さ25cm
 - ・シャツの前面・右側・左側・中央に高さ10cm
 - ・パンツの右側又は左側に高さ8cm（シャツの番号と同一）
- ③ 参加申込書にはユニフォーム・パンツ・ストッキング（正・副の色系統2種類）を明記する。
- ④ 同系色と判断される場合は、メンバー表提出に主審のコイントスによりそれぞれチームの色を決定する

12.審判の合図

フリーキック・PK・プレースキックでキッカーに蹴らせるタイミングを知らせる笛の代わりに笛が鳴り始めてから終わるまでの間、主審は片手を前に水平に伸ばして示すものとする。

13.表彰

- ① 決勝戦終了後、閉会式において行う。
優勝チーム（男女各1チーム）及び準優勝チーム（男女各1チーム）に賞状を表彰する。
- ② 個人表彰は最優秀選手賞、得点王、敢闘賞（男女各1名）を授与する。

14.注意事項

- ① 競技用具のチェック
試合開始前に背番号・胸番号・パンツ番号・危険物の着用・すね当ての検査を行う。
- ② メンバー表の提出
メンバー表は3部複写とし、3部提出し確認を受けること。
1部はチーム控えとして返却する。
第1試合については試合開始予定時間の30分前に競技本部に提出すること。
以後の試合については前の試合のハーフタイム時に提出すること。
- ③ チーム・ベンチ
競技組み合わせ表の番号の若いチームが予備審判席からコートに向かって左側のベンチとする。なお、ベンチに座る選手は必ずビブス着用のこと。
- ④ 練習時間
コートでの練習は試合開始15分前から5分前とする。ただし、大会運営上支障がある時は変更することがある。
- ⑤ その他
大会中の負傷・病気については応急手当のほかは主催者では行わない。
スポーツ傷害保険等は、各チームにおいて加入しておくこと

午前 11 時まで各体育部長に提出すること。関東ろうあ体育大会第8回フットサル競技選手

名 簿

部門	□男子 □女子		都道府県名		
監督		部長		主将	

No	氏名	登録種別 (○で囲む)	年齢	背番号	ポジション
1		選手・監督・コーチ・マネージャー			
2		選手・監督・コーチ・マネージャー			
3		選手・監督・コーチ・マネージャー			
4		選手・監督・コーチ・マネージャー			
5		選手・監督・コーチ・マネージャー			
6		選手・監督・コーチ・マネージャー			
7		選手・監督・コーチ・マネージャー			
8		選手・監督・コーチ・マネージャー			
9		選手・監督・コーチ・マネージャー			
10		選手・監督・コーチ・マネージャー			
11		選手・監督・コーチ・マネージャー			
12		選手・監督・コーチ・マネージャー			
13		監督・コーチ・マネージャー		/	/
14		監督・コーチ・マネージャー		/	/
15		監督・コーチ・マネージャー		/	/

※選手の登録は 12 名までとする。

※監督やコーチが選手も兼ねる場合は「選手」と「監督(またはコーチ)」両方を○で囲むこと

F P	ホーム (正)	アウェイ (副)	G K	ホーム (正)	アウェイ (副)
上衣			上衣		
パンツ			パンツ		
ソックス			ソックス		